

令和元年度 第3回燕市総合計画審議会 議事録

日 時	令和元年11月18日(月)午後1時30分から3時30分
場 所	燕市役所 つばめホール
欠 席	山岡委員、甲田委員、田野委員、沖野委員、末武委員、西川委員、 中川委員、廣川委員

1. 開会

(事務局)

委員の出席状況の報告

2. 協議題

(1) 第2次燕市総合計画の中間評価報告書について

<事務局より資料1「第2次燕市総合計画中間評価報告書(案)」の説明>

<質疑応答>

(会長)

ご意見、ご質問はないか。

(会長)

・2ページの基本目標の達成状況について、自然動態と社会動態に要因があるが、自然動態の出生数の減少については若年女性の減少や晩婚化が要因とある。女性が減ったというエビデンスはあるか。また、晩婚化は数値で出ているのか。

(事務局)

- ▶ 女性の減少は、数字で出ている。晩婚化や1組の夫婦がもつ子どもの数の減少についても、アンケート調査で確認している。

(会長)

- ▶ この表現だと、女性が減っている、女性が晩婚化しているとなっているが、両性の晩婚化という面もあるのではないか。

(事務局)

- ▶ 男性の晩婚化も進んでいるため、それらを加味して修正をさせていただく。

(2) 第2次燕市総合計画の中間評価に基づく施策等の見直しについて

<事務局より資料2「第2次燕市総合計画【中間評価に基づく施策等の見直し版】(素案)」の説明>

<質疑応答>

(会長)

- ・委員の皆様から、ご意見、ご質問はないか。

(委員)

・37 ページ「障がいのある人への切れ目ない支援」の「障害福祉サービス事業所月額平均作業工賃の推移」のグラフについて、平成 24 年度に一気に上昇し、その後下がっている。利用者数が伸びている中で、工賃がそこだけ上がった要因はなにか。

(事務局)

➤ これまで燕市の工賃は低い傾向にあった。新庁舎の建設に合わせて、掃除を市内のすべての障がい者の事業所に担ってもらった。また、回収したペットボトルのラベルを剥いできれいな状態にすると売却できるので、そういった作業も担ってもらっており、それらの工賃は最低賃金にしているため、数値が上昇した。

(委員)

➤ 上がったのは理解したが、下がった要因は何か。

(事務局)

➤ 少し複雑な要因があるのだが、その後、重度の障がい者の事業所からも担ってもらっており、その方の工賃も含めて計算すると減少した。

(会長)

・75 ページ「公共交通の整備」について、77 ページに記載されている「市営公共交通の継続的運行」に、「圏域住民に対し、公共交通を利用する意義や維持する必要性等について周知を図ります」と加筆されている。具体的にどのようなことを考えているのか。

(事務局)

➤ 「燕・弥彦地域公共交通網形成計画」を今年の3月に策定した。その中で詳細に記載しているのだが、1つは公共交通の利用に関する情報提供ということで、利用者が必要とする運行ルートや時刻表を一元的に提供する、複数の公共交通による交通手段を跨いで一元的に提供する取り組みを図っていききたい。もう一つは、モビリティマネジメントの推進ということで、地方都市では過度な自動車利用が主流になっているが、公共交通利用への自発的な転換を図っていただくという意識付けをしていききたいと考えている。公共交通を持続可能なものとするためには、なるべく公共交通を利用したほうが、環境にも優しく、これからの高齢化社会に向けても、利用することが社会の役に立つということ、しっかりと啓発していききたいと考えている。

(会長)

➤ 「市民が安心して暮らし続けることができる公共交通網の形成」とあるが、総合計画では「交流・応援（燕）人口」を増やすことも目標にしている。よそ者にとっても公共交通は重要である。燕市は、車を持たない者にとって非常にハードルの高いまちだと思う。意見だが、「交流・応援（燕）人口」の増加を図る観点から、よそ者にとってハードルの低いまちづくりのためにも、公共交通の充実を図っていただきたい。

(副会長)

・50 ページ「支え合いの地域福祉」の中の52 ページにある指標「地域の交流場所数」について、だんだんと交流場所が「認知症カフェ」や「地域の茶の間」に移行してきているということだが、

合計値だけではどのように施策を展開していくのかが分かりにくい。どの種類の交流場所が今後どのようになっていくのか。3種類あるということは、地域によっては同じものがあったり、まったくなかったりといった偏りができるのではないか。

(事務局)

- 現在、「認知症カフェ」や「地域の茶の間」については、3地区で活発に実施されているが、担い手が圧倒的に不足している地区がある一方、積極的に地域が関与している地区もある。担い手育成を含めて、空白となっている地域での事業展開、強化をしていくことで、全市まんべんなくコミュニティができるよう努めていきたい。

(副会長)

- これから事業展開するにあたっては、数字を細かく設定したほうが市民にとっても安心だし、取り組みが弱い地域があるということなので、それを示したうえで、地域への働きかけができるので、検討いただきたい。

(会長)

- 「ふれあいいいききサロン」は、基準値よりも1箇所減少して78箇所ということだが、資料1での説明では「運営役の高齢化や参加者数の減少」ということが要因とある。高齢者の数は増加しているのに、なぜ参加者数が減少するのか。また、運営役の高齢者は世代交代が進んでいないのか。

(事務局)

- 「ふれあいいいききサロン」については、社会福祉協議会に委託している事業だが、自治会ごとに1つのサロンが運営されているといった実態である。

(事務局)

- 補足させていただく。運営役の高齢化は課題ではあるが、一方で、資料1の評価に記載のある「通所サービスB」として実施する「地域の茶の間」に関しては、介護予防ということで、元気なアクティブ世代の活用として国をあげて取り組んでいるもの。社協のボランティア的な考え方から、こういったサービスに移行してきていることが1つの傾向となっている。

(委員)

・12ページ「ものづくり産業の活性化」の中の13ページにある施策の方向性に、「産業・社会構造の大きな変革に対応するため、企業の人材確保や労働生産性向上を目指す取り組みを支援する」とある。方向性は間違いないと思うが、14ページには「多様な人材の活躍促進」ということで、「若者、女性、高齢者、障がい者、外国人など、多様な人材の定着を目指します」となっている。「定着」とは、今働いている従業員が辞めないような施策の意味合いが強いのではないか。新たに人材を採用するのであれば、「多様な人材の『確保』を目指します」としたほうが良いと思う。

(事務局)

- 燕市は女性の就業率が特に高く、県内においてもトップを維持しているが、女性の定着に関しては、女性にとって働きやすい職場環境づくりを目指し、様々な支援を行っている。引き続き実施していく上での定着ではあるが、今回は外国人を加えた。市内で雇用されている外国人は多くないのだが、その部分においては「定着」というよりは「確保」という観点での取り組みを進めていきたい。今すぐに外国人を雇用してくださいというわけではなく、各企

業のニーズに応じて、特に高度な技術のある外国人が活躍できる体制を整備する施策を今後実施していく必要があると考え、このような表現とした。

(事務局)

- 「確保・定着」に修正し、両面から推進していきたい。

(委員)

・先ほども質疑のあった 77 ページの J R の部分だが、「J R 東日本に対し、列車の運行改善を要望」とある。2 年前に吉田から分水に引っ越したのだが、電車が使えない。吉田駅から先は 1 日 6 本だったと思う。吉田駅までであれば、新潟駅発の最終で吉田駅に夜の 12 時半に着く電車がある。分水駅まで帰ろうとすると、新潟駅発 8 時くらいが最終になる。同じ燕市内なのに、住みやすさを考えたときに、J R に対しての働きかけは有効なのか。

(事務局)

- 越後線の運行状況だが、吉田－新潟駅間は 1 日 24～25 本運行されている。吉田－柏崎間は 1 日 11 往復となっており、2 倍以上の格差が生じている。これについては、関係自治体とともに、毎年 J R に対し要望しているが、J R からは、沿線人口が減少している中で運行本数を増やせる状況ではないとの回答をもらっている。

(会長)

- 事実としてはその通りなのかもしれないが、だからといって仕方ないとはいかない。我々が目指すのは、今回の内容であれば分水地域の住民の利便性の確保なので、J R が駄目なのであれば、例えば吉田と分水を結ぶ新たな公共交通の形成であったり、それも難しいのであればタクシー利用の助成であったり、ほかの自治体の例を参考にすれば公共交通の形成による住みやすさの向上につながるのではないかと。

(事務局)

- 公共交通の市内格差については、J R への要望に対し改善がみられない中で、合併以降、市内循環するスワロー号を運行しているほか、市内および弥彦村全域をエリアとしたドアツードアのデマンド交通「おでかけきららん号」を運行している。J R 以外の部分においては、市で可能な範囲で公共交通の充実に努めたい。これらは市民に定着しており、毎年安定的に乗車いただいているが、現在、スワロー号、やひこ号のほかに、コミュニティバスを増便できないか検討している。

(副会長)

- J R とコミュニティバスの連携ができていないのではないかと。J R に着くと 5 分前くらいにバスが出ていたり、着いたら 1 時間待たされたりする。これだと公共交通は不便だという話になる。運行時間を見直し、J R 側に寄せてみれば公共交通に対する満足度が向上するのではないかと。

(事務局)

- 新たな公共交通の計画ができたので、今年度から本格的に見直しに着手している。その中で、乗り継ぎについても十分に検討していく。

(会長)

・他に意見がないようなので、事務局は施策等の見直しについて、本日の意見を加味したうえで、文言などを適宜修正いただきたい。

(3) 第2期燕市まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案について

<事務局より資料3「第2期燕市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)」の説明>

<質疑応答>

(会長)

・審議に入る前に確認させていただきたい。審議会を経て、その後パブリックコメントを経て正式決定する第2期燕市総合戦略については、記載されている事業が地方創生交付金の対象となる。先ほどの説明者の話では、KPIの達成度合いによってメリハリをつけられる、つまりKPIが達成していなければ縮減率がかけられるということなのだと思うが、それについて他に付け加えることはないか。

(事務局)

- 現時点では、KPIが直接影響を与えるといったことにはなっていないが、交付金という観点からすると、KPI未達成の場合は、縮減率がかけられる可能性があるといった情報しかない。

(会長)

・委員の皆様から、ご意見、ご質問はないか。

(会長)

・目標値について、これまで以上に根拠の説明が求められる。時間の関係で、1つずつ説明を受けるわけにはいかないが、今回、目標値を設定するにあたっての統一的な考え方があればお聞かせいただきたい。

(事務局)

- 基本的には、これまでの実績を踏まえた伸び率の延伸となっている。ただし、伸び率のまま推移するかというと、そうではない場合もあるので、年度間の様々な要因を検証した中で、場合によっては伸び率に縮減をかけた指標もある。

(副会長)

・26ページ「①創業支援」のKPIに「創業件数」がある。目標値が70件ということだが、どういった創業を想定しているのか。関連で、13ページの第1期のKPIは「新規創業者数」とあり、人の数になっている。その考え方の違いとあわせて、施策の策定には中身が明確なほうが良いので、どういった戦略なのかをお聞かせいただきたい

(事務局)

- 第1期は人の数、第2期は件数とした。個人開業届と法人開業届があり、これまでは個人開業届を提出した創業者の数としていたのだが、第2期では、新規創業の法人もカウントすべ

きということになり、その合算とし、「件数」とした。中身について、これまでの個人の開業に関しては、平成30年度は30人の実績だったが、内訳はサービス業が8人、飲食業が4人、製造業では溶接が非常に多く4人、その他建設関係など。当市においては、サービス業と飲食業が圧倒的に多い状況となっている。

(副会長)

➤ 今後増やそうとしている業種はあるのか、考えをお聞かせいただきたい。

(事務局)

➤ 燕市はものづくりが盛んなまちなので、ものづくりに関連した創業、起業を増やしていきたい。今も金融機関と共同で創業講座を行っている。市が単独でやっていた時から数えて5～6年になる。サービス業や飲食業といったジャンルに関係なく、創業を増やすという施策を引き続き行っていきたい。

(副会長)

➤ 意見だが、36ページ「(3) 持続可能性を意識したまちづくり」のKPIに「特定空き家等の件数」がある。件数の実績は急激に減少しており、燕市は空き家の解消に尽力しているのが良く分かる。文章の中にも「まちなかの空き家等」とあるが、全国のどのまちでも、まちなかが衰退し空き家が増加している。そこにまた小売を入れようとする、なかなかうまくいっていないのが全国の状況となっている。まちなかの建物をどんどん除却すればいいのかというと、にぎわいがなくなってしまうので、まちなかの空き家を活用した起業支援をセットでやるといいのではないか。その時に、小売のあとがまた小売でもいいのだが、製造業で人に見せる何か、来られた方が製造に関わる仕組みなど、掛け算で施策を展開すると、非常に興味深い取り組みになるのではないか。

(委員)

・25ページ「①中小企業の魅力発信・人材獲得」にある「若者、女性、高齢者、外国人、障がい者など、多様な人材の定着」とあるが、さきほどの総合計画と同様に、「確保」を挿入したほうが良い。その下のKPIについて、「高卒求人確保のための企業見学会」とあるが、この表現だと、民間企業から高卒者を対象とした求人票を出してもらうための企業見学会となる。高校生を対象として、高卒求人を出した企業への見学会を行い、就職に結びつけることを目的とするなら「高卒求人『充足』のための企業見学会」としたほうが良い。

(事務局)

➤ 「定着」は「確保・定着」に、「確保」は「充足」に修正させていただく。高卒者が管外で就職することが多くなっている。企業を知ってもらうことが重要だと考えており、今後も高校生やテクニカルの学生などから企業を知っていただくための見学会等、高校求人充足に向けた取り組みを行っていきたい。

(委員)

・目標値を見て、ハードルが高すぎるのではないかというものもあり、妥当だと思うものもある。高すぎるとやる気が削がれるのではないか。市内の人を呼び込む数値の目標がいくつかあるが、広報以外の告知の方法で、ネット以外のものがあれば教えていただきたい。広報紙は、年配の人

にとっては楽しみにしている人がいるのだが、若い人にとっては興味がないようだ。独身の人もっと見てもらえるようにすることで、市のアピールができるのでは。子育て支援が充実しているというアピールは、結婚した後の人ではなく、結婚する前の人に知ってもらえるよう、もっと関心を持って読めるようにしたほうが良いのではないか。質問したいのは、市外の人にネット以外で、どのような告知を考えているのかということ。

(事務局)

- ▶ 情報発信は大きな課題だと捉えている。ホームページはもちろんのこと、SNSなどでも対外的にアピールしていきたい。

(委員)

- ▶ 若い人はスマートフォンのアプリを良く使う。アプリには広告がついているものもあり、LINEやいろいろな動画サイトなど、若い人が使っているそういったアプリの広告を活用することで、全国規模で広報活動ができるのではないか。

(委員)

・26ページ「②ダイバーシティ経営と人材育成」のKPI「外国人材、女性の市内企業への就職件数」とあるが、目標値が「30人」となっている。件数なのか人数なのか。

(事務局)

- ▶ 人数であるため、「就職者数」に修正させていただく。

(会長)

・今日審議している総合戦略は「素案」であるが、今回の意見を踏まえて修正したものが「案」になり、その後、パブリックコメントを行うことになるのか。

(事務局)

- ▶ 本日の審議会と並行して、市議会の12月定例会に「素案」のまま説明し意見をいただく。その後パブリックコメントを行い、それぞれの修正意見を踏まえ「案」を作成し、2月の審議会で皆様にお示ししたい。その後、市議会の3月定例会で報告したうえで「案」を取る流れとなる。

3. その他

(会長)

- ・委員の皆様から、本日全体の会議について質疑、ご意見はないか。
- ▶ なし

(会長)

- ・事務局からは何かないか。

(事務局)

- ▶ 今後の予定だが、本日いただいた意見、質問を踏まえ、素案を修正するとともに、今後の取り組みの参考にもさせていただく。修正後の資料については、市議会の12月定例会で

説明を行い、その後、パブリックコメントを行う。それぞれの意見を踏まえた修正を加えた最終案を、再度審議会で審議いただく。そして市議会3月定例会を経て策定となる。なお、次回の審議会は、2月10日（月）を予定している。ご案内の送付は開催の1か月ほど前となるが、ご予定をお願いしたい。

4. 閉会

以上